

水稻の生育状況と今後の管理対策（第8号）

令和7年7月31日
新潟県農林水産部

- ◎ 出穂前の葉色が淡い場合は、後期栄養を維持するため、追加の穂肥を確実に施用しましょう。
- ◎ 貴重な水資源を大切に使いましょう。

〔7月30日現在の県内全域の生育概況〕

- コシヒカリは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」状況です（県平均の出穂期は平年に比べ1日程度早まり8月2日となる見込み）。
- 新之助は指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「淡い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 7月30日発表の北陸地方の2週間予報（7月31日から8月12日）では、7月31日以降は高温～かなりの高温が予報されています。
- 今後も高温が見込まれており、葉色低下が進む懸念があります。

〔今後の管理対策のポイント〕

- 出穂期前後は最も水を必要とする時期です。根が養水分を吸収できる状態を維持するため、飽水管理^{*1}を継続しましょう。
- 収量・品質を維持するため、落水は出穂後25日以降としましょう。ただし、高温登熟年は、用水が確保されている地域は出穂後30日まで継続し、継続できない場合はかん水可能期間の終期には十分かん水しましょう。
- 貴重な水資源を効率的に使用するため、かん水時は、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を閉めましょう。
- 斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。畦畔・農道等や水田内の雑草管理及び適期の薬剤防除等の適切な対策を実施しましょう。

コシヒカリ

- 施肥体系に関わらず、出穂3日前頃に葉色が淡い場合は、後期栄養を維持するため追加穂肥^{*2}を施用してください。穂が見え始めていても施用しましょう。施用量は、窒素量2kg/10aをめやすとし、葉色に応じて増減しましょう。施用量の判断に迷う場合は、地域のJAや農業普及指導センターに相談してください。

新 之 助

- 分施肥体系の2回目穂肥（出穂期12～10日前）は、葉色に応じて、必要量を確実に施用してください。葉色が淡い場合は、早めに施用しましょう。その後、出穂3日前頃に葉色（SPAD値）が34未満の場合は、後期栄養を維持するため追加

で穂肥を施用してください。

- 全量基肥施肥^{*3}のほ場で、出穂 10 日前頃に葉色が指標値よりも淡い、または急激に低下している場合は、追加で穂肥を施用してください。その後、出穂 3 日前頃に葉色（SPAD 値）が 34 未満の場合は、後期栄養を維持するため追加で穂肥を施用してください。
- ほ場内をよく観察し、いもち病の病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

早 生 品 種

- 出穂後は高温で推移しており、収穫適期が早まる可能性があります。刈遅れとならないよう、今から収穫準備をしてください。
- 粳の黄化割合が 85～90%くらいになった頃が収穫適期ですが、高温登熟年は刈り遅れとなる場合もあるため、地域の J A や農業普及指導センターの最新情報を参考にしてください。
- 乾燥温度や乾燥速度に注意し、適正な乾燥で胴割米の発生を防止しましょう。適正な粳すり・選別を行い未熟粒や被害粒等を除去し、整粒歩合を高めましょう。

*1 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

*2 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に行う追肥のこと

*3 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、熱中症予防対策を必ず行い、健康管理に十分注意しましょう。
 - ・ 気温の高い時間帯に作業しない。
 - ・ 単独で作業しない。
 - ・ 休憩はこまめに取る。
 - ・ 定期的に水分・塩分を補給する。
 - ・ 帽子等で直射日光をさえぎる。
 - ・ 暑さ対策用品を活用して身体を冷やす。
- 寝不足や疲労がたまると熱中症になりやすくなるので、日頃から体調管理に十分注意しましょう。

- 今後の管理対策発信予定日 8月21日

〔補足資料〕

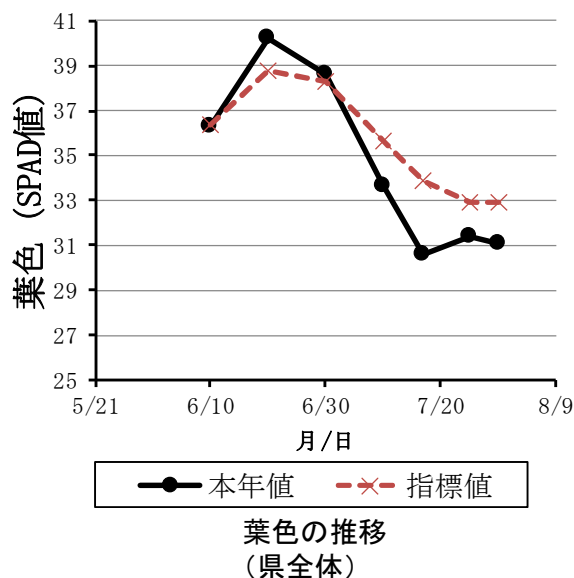
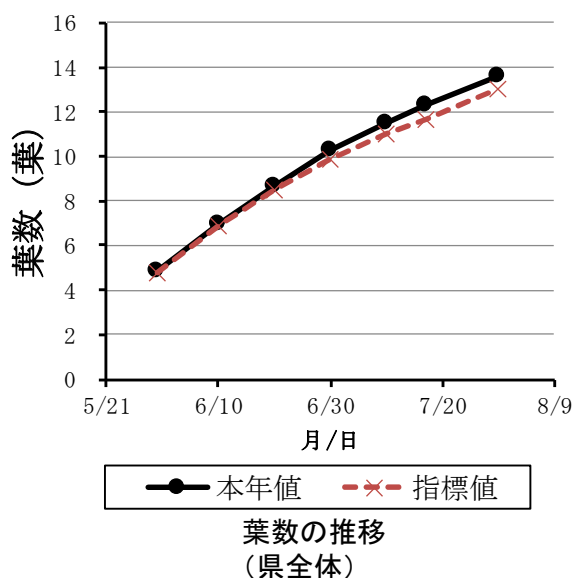
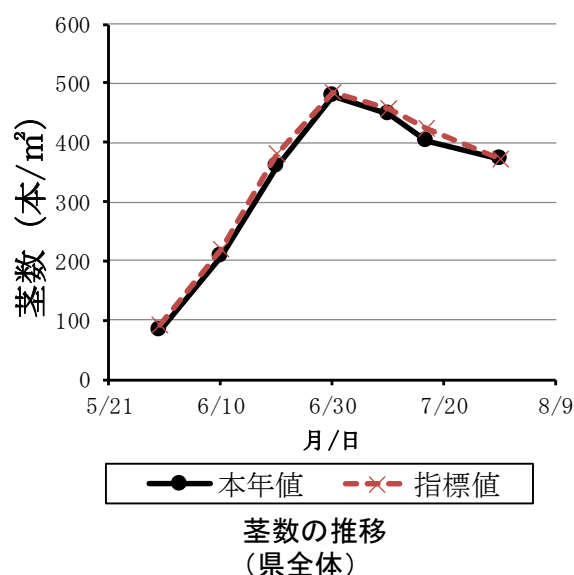
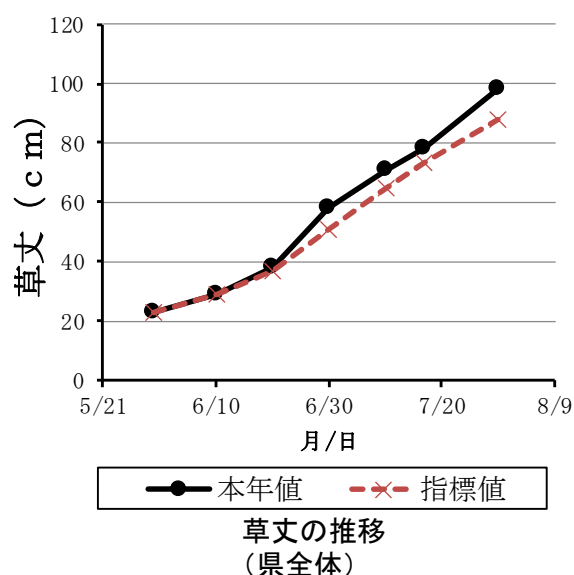
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月30日現在）

コシヒカリ

○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	98 cm	88 cm	長い	111%
茎数	373 本/㎡	373 本/㎡	並	100%
葉数	13.6 葉	13.0 葉	やや早い	+0.6 葉
葉色 (SPAD 値)	31.1	32.9	やや淡い	-1.8

注) 県内全域の14生育調査はデータの平均値（田植え5月12日、栽植密度17.2株/㎡）

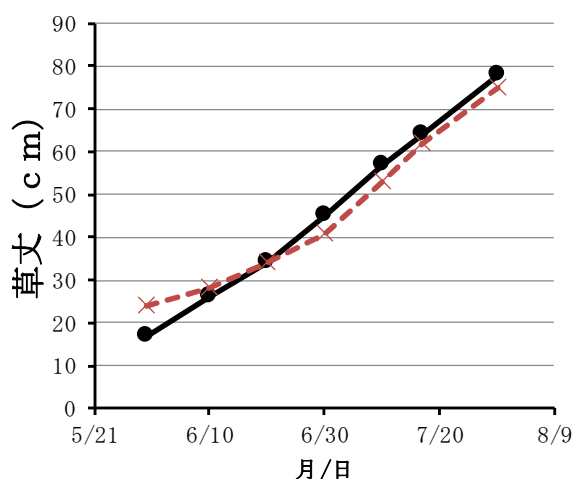


新 之 助

○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「淡い」です。

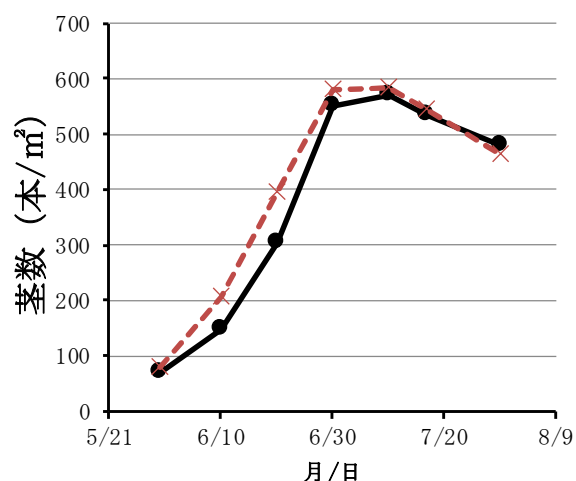
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	78 cm	75 cm	並	104%
茎数	481 本/㎡	464 本/㎡	並	104%
葉数	13.8 葉	13.4 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	32.2	34.2	淡い	-2.0

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値 (田植え5月19日、栽植密度16.7株/㎡)



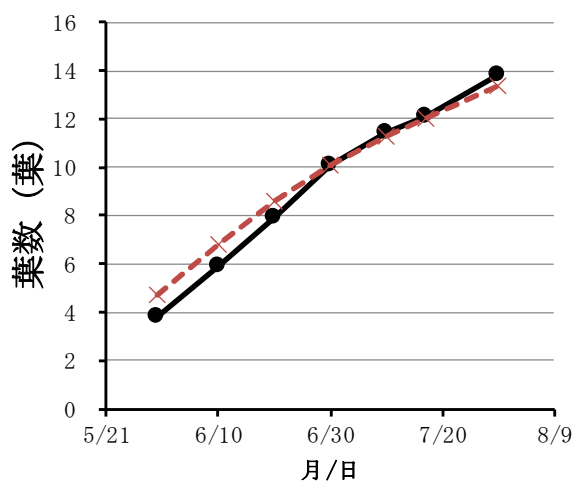
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



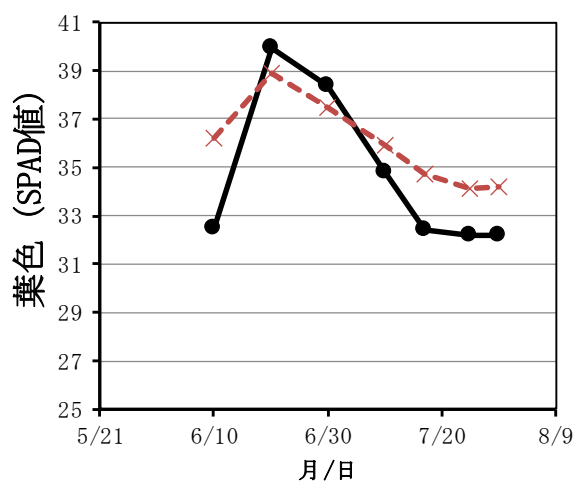
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉色の推移
(県全体)

こしいぶき (参考)

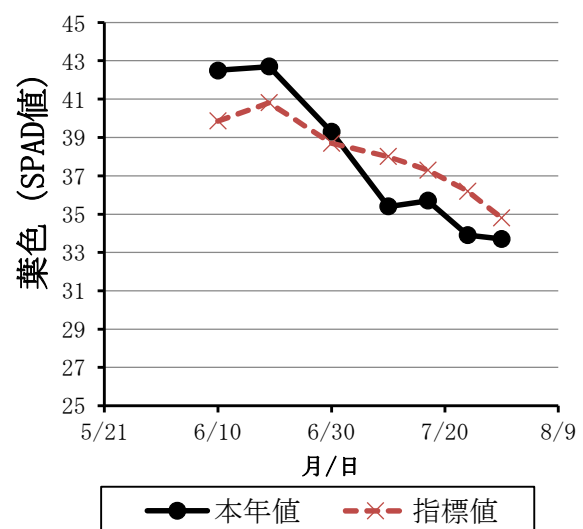
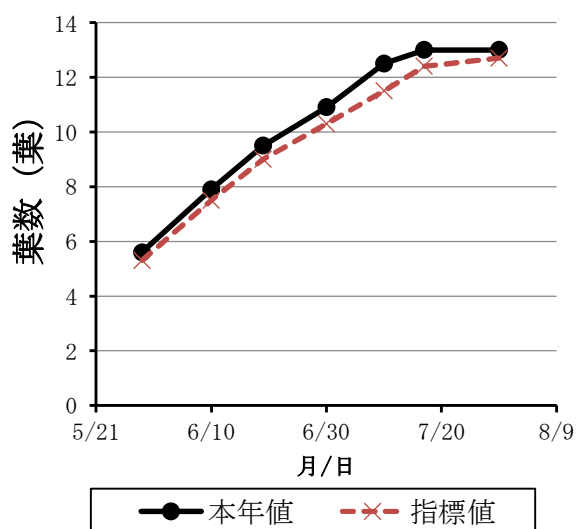
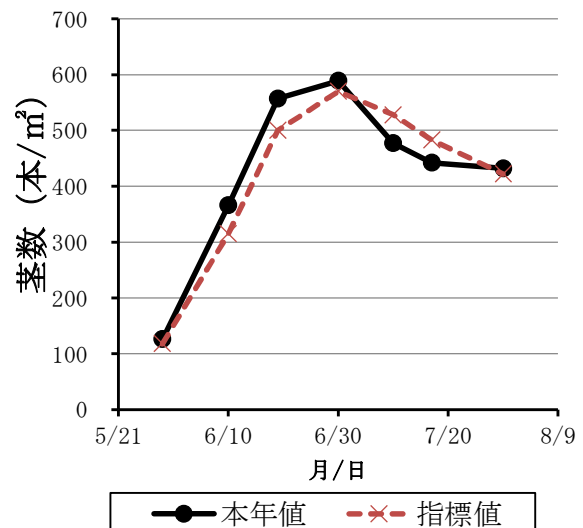
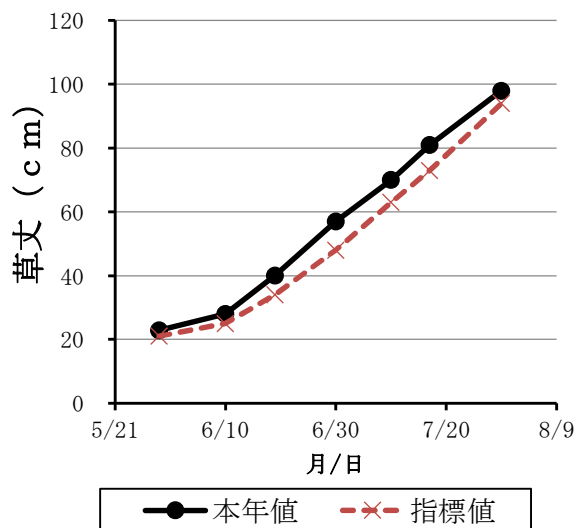
○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	98 cm	94 cm	並	104%
茎数	432 本/m ²	422 本/m ²	並	102%
葉数	13.0 葉	12.7 葉	並	+0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	33.7	34.8	やや淡い	-1.1

注1) 化学肥料栽培。田植え5月9日、栽植密度18.7株/m²

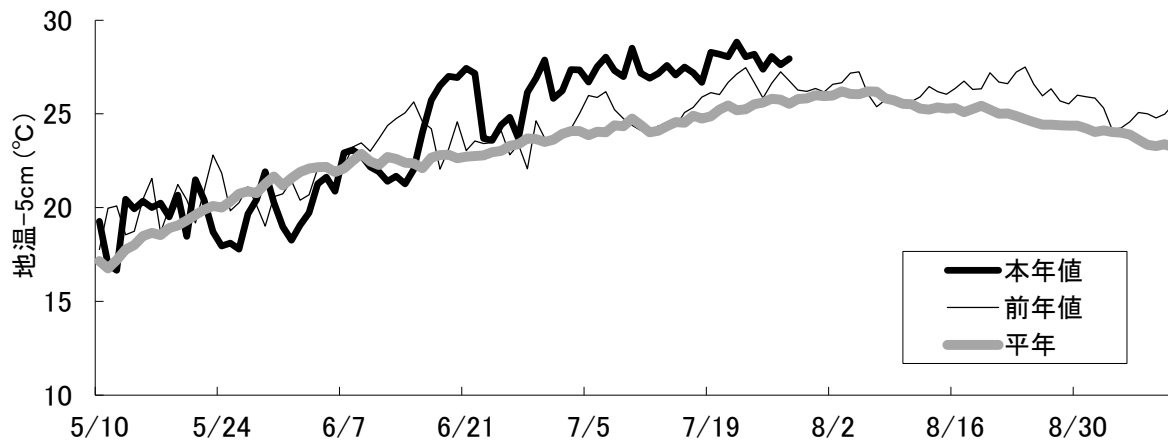
注2) 基肥窒素成分量3.0kg/10a、穂肥窒素成分量3.0kg/10a（1.5kg×2回分施：1回目7月4日、2回目7月11日）

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

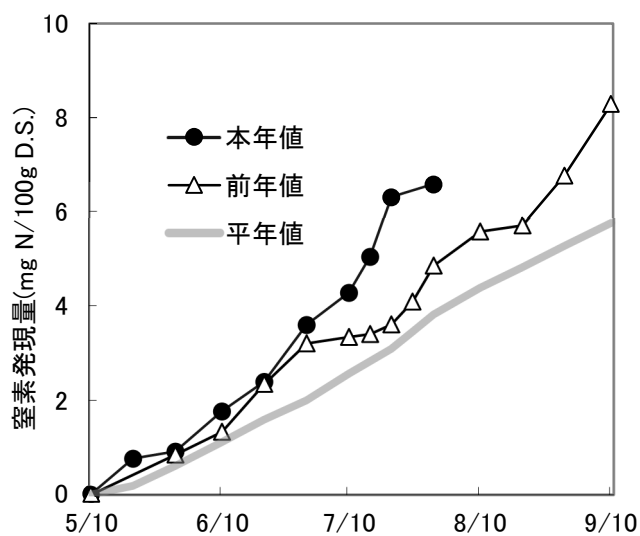


3 ちりよく 地力窒素の発現状況

- 7/21～7/28 の期間の日平均地温は平年差+2.4℃で平年より高く推移しました。出穂期までの地力窒素発現量は平年より多くなりました。



水田地温 (5 cm 深) の推移
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素発現量の推移(7月29日)
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
初期値=0、田植日：5月9日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a